



旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校

学校便り 1月号

平成26年1月8日発行

発行責任者：竹淵 正人

年の初めは防災グッズの点検を

校長 竹淵 正人

新年、明けましておめでとうございます。

13日間の冬休みを終え、元気に登校する児童の姿を見て、みなさんが幸せな1年を過ごせることを願いました。インフルエンザやノロウイルスによる感染症はこれからが本番です。ご家庭でも予防に努めてください。クリスマスからお正月までは、楽しい行事への参加や美味しいものをたくさん食べ、生活リズムも普段とは違った2週間だったと思います。大人も含め、学校モードや仕事モードに戻したいものです。

昨年12月、相談学級の児童を引率し、池袋にある防災館を訪ねました。その中で、首都直下型地震が発生したらどうなるか、ドラマ仕立てになっている映像を見ました。防災館の映像は、人口が密集し、政治経済の中核機能が集まる首都東京で何が起こるか再現された内容です。千年に1回といわれている東日本大震災(M9級)から3年あまり、被災地の復興は進んでいますが、関東から東海を震源とする巨大地震(M7級)は、あすにも首都圏を襲うかもしれないといわれています。新聞記事にあったシナリオの抜粋も交えて紹介します。

20XX年12月28日、平日の午後6時。新年を迎える準備に忙しい街で突然、通行人の携帯が次々とけたたましい警戒音を発した。「えっ、何！地震」小刻みな揺れが足元を襲い、さらに激しい横揺れが来た。ビルの窓ガラスや壁面のタイル、看板が落下し、悲鳴があちこちであがった。地下街、交通機関、大型店舗等ではパニックが起きた。数分後、揺れは収まったが、街は真っ暗になった。都心南部を震源にするM7.3の地震だ。大田区、世田谷区、練馬区、江戸川区など都心部を囲む木造住宅や老朽化したビル17万5千棟が全壊。石油機器や電気機器が倒れ、倒壊家屋などから最大2千ヶ所から同時出火した。携帯、スマホはアクセスが集中し使えなくなり、情報はラジオ頼みとなった。消防車や救急車は倒壊した建物や放置車両、渋滞のため身動きがとれない。600ヶ所では火を消し止められず延焼。住宅密集地では2日間燃え続け41万棟が消失した。いったん難を逃れた人々は、地震後まもなく自宅や避難所へと動き出した。私鉄、地下鉄、JRは全線で不通に。最大800万人が帰宅困難者に。余震も襲い交通網、ライフラインが寸断された。送電が止まり、水道も止まる。トイレも使えない。コンビニの棚からは数時間で商品がなくなる。被災地からの物資供給が止まり、食料、飲料水不足が深刻になった。物資不足は震災発生後1週間後がピークだった。物流は1ヶ月後にはほぼ回復したが、被災したコンビニからの燃料供給は遅れ、国民生活に深刻な影を落とす。

旭丘小学校は地域の防災拠点に指定され、近隣の方々の避難場所としての役割を担っています。あす起こるかもしれない巨大地震に対して、食料、飲料水、毛布などを備蓄していますが十分ではありません。災害時は自宅に帰れない帰宅困難者も大勢集まることになり、備蓄品が不足すると考えています。各ご家庭においても1週間分程度の食料・飲料水等の備えが必要となります。年の初め、お正月の行事の1つとして、毎年恒例の防災グッズの点検はいかがでしょうか。